



## 国際バカロレア 候補校になりました！

国際バカロレア教育は、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目標としています。これからの時代を生き抜いていく力を持った生徒を育てるために、本校は今後、国際バカロレア教育の研究を進めていきます。

三豊市の山下昭史市長は6月30日、グローバル人材の育成を目的とした教育プログラム「国際バカロレア（IB）」の「候補校」として詫間中学校（同市詫間町）が認められたと明らかにした。詫間小学校（同市詫間町）に続いて市内で2校目、県内の中学校では初の認定となった。認定は26日付。市は詫間小、詫間中をモデル校として、市内の学校へのIBの導入を進める方針を打ち出している。市長は30日の6月定例議会本会議の閉会あいさつで言及し、「この認定により、小学校と中学校が連携して、IB教育を軸とした教育の提供が可能となる」と述べた。市教委によると、詫間小と詫間中は「関心校」として昨年4月に国際バカロレア機構（本部・スイス）に登録。詫間小は3、12歳を対象とする初等教育プログラム「PYP」の候補校として今年3月に認定を受けた。続いて、詫間中は11、

国際バカロレア 詫間中、候補校に

【四國新聞 2025.7.1】



16歳対象の中等教育プログラム「MYP」の候補校申請を同5月に行っていた。プログラムを実施できる「認定校」となるには、同機構が定める要件を満たす必要がある。詫間中は同機構が決定したコンサルタントのサポートを受け、教員がIBの概念や理念について学ぶワークショップに参加したり、先進校を視察したりして研修するなどの取り組みを進める。候補校に認められてから2、3年後をめどに認定校となることを目指す。

## 探究を楽しみ、自ら学びを深める

7月2日（水）、香川県や三豊市の教育委員会から14人の先生方が来校（学校訪問）し、全学級の授業を参観しました。1～4校時に全ての先生が公開授業を行い、「『いきいきと授業に打ち込む姿』が大変印象的」と来校者より評されました。

下校後の会議でも、「表情朗らかで、笑顔があふれていました」「プリントを受け取る時に『ありがとうございます』と言っており、とても好感がもてます」「どの生徒さんからもさわやかなあいさつをしてもらいました」など、おほめの言葉をたくさんいただきました。

